

電事連会長 定例会見要旨  
(2010年2月19日)

会長の森です。本日私からは「世界原子力発電事業者協会 = WANO 総会のご報告」と「地球温暖化対策基本法に対する電力業界の考え」の2点について申し上げたいと思います。

1. WANO 総会のご報告について

まず、今月1日から2日間にわたり、インド・デリーで開催された WANO 総会についてご報告させていただきます。

WANO は、チェルノブイリの事故を契機に設立された民間の国際組織で、35の国と地域の原子力発電事業者が会員となって、安全性・信頼性の向上を目的に、運転情報や事故情報の交換、原子力発電所を訪問し改善点などを指摘しあうピアレビュー活動などを行っています。

総会は、2年に1度、各会員の経営層が一堂に会して、活動方針や原子力発電に関する諸課題について幅広く協議・意見交換を行っております。10回目となる今回は、各国から約370名が集まり、日本からは私をはじめ電力各社の経営層など約80名が参加いたしました。

今回は、「更なる原子力安全確保に向けて～変化する世界の中で～」をテーマに、設立から20年が経過し原子力を取り巻く環境が大きく変化するなかで、WANOの強化策を中心に協議を行いました。

会議の冒頭、IPCCのパチャウリ議長が基調講演を行い、『原子力発電は温室効果ガスの排出抑制に寄与でき、可及的速やかに進めていくべきである。IPCCは、第4次評価報告書で初めて、温暖化緩和策として原子力発電を取り上げたが、安全の組織やスキルがなければ全ての国にとって適切なものとは言えない。安全な原子力を提供できるかどうかはWANOの取り組みにかかっている』との発言がありました。

また、その後のセッションでは、新興国の参入や既存事業者の新增設など、世界的に原子力発電所が急増していくなかで、安全性を世界レベルで維持・向上させていくためのWANOの組織体制の見直しや機能強化などについて議論を行いました。

最後に、2日間の議論を踏まえて、議長であるEDFのローレン・ストリッカー原子力担当上級顧問が総括を行い、今後、会員各社のCEOが積極的に関与しWANOを強化していくことや、中国・インドなどアジアでの原子力の新增設が相次いでいることを受けて、新規導入国対応のための専門チームを創設し、原子力発電所の起動前のピアレビューを実施することなどについて報告されました。

今後、世界で約 150 基・1 億 5 千万 kW の原子力発電所の建設が計画されています。原子力は、世界のどこの国であっても万一安全を損なう大きな事故やトラブルが起これば、世界中の原子力事業者が影響を被るという点で、全員が同じ船に乗っております。

私ども日本の電気事業者は、40 年間にわたり培ってきた原子力に関する豊富な経験や知識を活かして、新規導入国に対し人材育成支援や安全管理面のノウハウを提供するなど、今後とも WANO の活動に積極的に参加し、世界の原子力発電の安全性向上に貢献してまいります。

## 2. 「地球温暖化対策基本法」に対する電力業界の考えについて

つぎに、「地球温暖化対策基本法」について、電力業界の意見を申し述べさせていただきます。

現在、政府の「地球温暖化問題に関する閣僚委員会」の下に設置された「副大臣級検討チーム」において「地球温暖化対策基本法」が検討されています。

報道等によりますと、法案は「90 年比 25%削減」をはじめ「固定価格買取制度」「地球温暖化対策税」「キャップ&トレード」等の主要政策を位置づけたものとなり、来月上旬にも閣議決定し、通常国会へ提出される予定です。

現在検討されている基本法は、今後 10 年間にわたり国民生活や日本経済に大きな影響を及ぼす可能性があります。そして、実際に様々な負担を負い、温暖化対策に取り組む当事者は、国民であり私ども企業であります。

昨年末に環境省が行った、基本法制定に向けた意見募集でも、『政府から情報が示されない中で国内の削減目標を先行して決めることには反対』といった「中期目標」に対する否定的な意見が 9 割近くを占め、さらに「地球温暖化対策税」「キャップ&トレード」など個々の政策に対しても否定的な意見が大半であったと聞いています。

また、「再生可能エネルギーの全量買取に関するプロジェクトチーム」のヒアリングでも、消費者代表から、「7 割以上の消費者が追加的な負担に否定的」という調査結果が紹介され、1 世帯あたり月額 100 円の追加負担が限界だとする意見が出されました。

こうした意見や懸念が数多く出ているにもかかわらず、法案の検討は非公開で進められ、具体的中身も明らかにされておられません。

政府には、ぜひ、検討状況を国民にしっかり示して、国民や企業の意見にも十分に耳を傾け、オープンな場で国民的な議論を行っていただくようお願いいたします。

度々申し上げておりますが、地球温暖化対策はエネルギー政策と表裏一体であり、エネルギーセキュリティや経済性とのバランスを無視しては成り立ちません。

私どもの試算では、例えば「地球温暖化対策税」について昨年環境省案で計算すると、電力全体で年間 4,300 億円の負担増、また 100%オークションで「キャップ & トレード」が導入された場合には、クレジットの調達で約 1 兆円の支出、さらに再生可能エネルギーの全種全量買取では、太陽光発電からの買取だけでも、2,800 万 kW が導入される 2020 年時点には年間約 1 兆円もの負担となり、全体をあわせると 2.4 兆円にも上ります。

基本法を進めるにあたっては、導入ありきではなく、CO<sub>2</sub> の削減効果に加えて、政策全体がエネルギーの安定供給や国民生活・産業に与える影響なども総合的に検討していただきたいと思います。

私からは以上です。

2010年2月19日  
電気事業連合会

## 2010年 WANOデリー隔年総会について

1. 日 程 2010年2月1日(月)～2日(火)
2. 会 場 インド・デリー(タージパレスホテル)
3. 参加者 世界各国から約370名のWANO関係者が参加(日本からは、電力9社、日本原子力発電、電源開発、日本原子力研究開発機構、日本原子力技術協会等の経営層など約80名の関係者が参加)
4. 主要プログラム(全体テーマ:更なる原子力安全の確保に向けて～変化する世界の中で～)

2月1日(月)

項 目	個別テーマ	講演者
基調講演	気候変動が経済・エネルギー・食糧生産・健康・開発にもたらす影響、および原子力がこの分野で果たす役割	ラジェンドラ・パチャウリ (インド・エネルギー資源研究所所長) ピエール・ガドネ (世界エネルギー会議事務局長)
講演	原子力安全—WANO はどのような立場で、どの方向へ向かうべきか	ローレン・ストリッカー(WANO 議長) ジョージ・フェルゲート(WANO 事務局長)
セッション	(1) 変化する環境の中で	座長 武黒 WANO 東京センター議長
	(2) 原子力発電所の新規建設について	

2月2日(火)

項 目	個別テーマ	講演者
セッション	(3) 次世代をになう人材について	
	(4) 新たな決意	日本原子力技術協会 藤江理事長
議長総括講演		ローレン・ストリッカー(WANO 議長)
その他	新総裁の指名と選出: キアン・ジンミン(中国広東核電集団有限公司会長)	
	次回隔年総会への招待: 深圳(中国)	
	WANO 原子力功労者賞授与式: ロンダ・ライトフット氏(ブルズパワ)ら8名が受賞	

### 5. 総会の概要

各社の CEO (最高経営責任者) が積極的に関与し、WANO を強化すべきとの方向で一致

WANO 憲章の改定を含む特別決議を満場一致で可決

特別決議の主な内容

- ・ キアン・ジンミン氏(中国広東核電集団有限公司会長)を次期 WANO 総裁とする
- ・ WANO 憲章および定款を以下のとおり改定する
  - CEO の関与を明確化
  - WANO 会員登録形態の変更
    - ◇ 国単位から事業者単位へ
    - ◇ 総会での投票権を 1 会員につき基礎票 5+ 保有するユニット数へ

- WANO 理事会構成員の増員（9名→最大14名）
  - ◇ これまでの「4つの各地域理事会の議長」、「4つの各地域理事会から選出された会員」、「理事会によって選出された議長」に加え、「4つの各地域で最大のユニット数を運転し、各地域理事会から選出された会員の代表」及び「WANO 総裁」を追加
- WANO ロンドン事務所の役割等を変更 など

既設炉に対しては WANO 会員間の情報共有および技術伝承・人材育成の重要性について、新設炉に対しては起動前ピアレビューを実施していくことなど原子力発電の安全確保について議論された

<参考> WANO の概要

1. 正式名称 世界原子力発電事業者協会（World Association of Nuclear Operators）
2. 設立経緯 チェルノブイリ原子力発電所事故を契機に、当時英国の中央電力庁（CEGB）総裁であった故マーシャル卿の提唱により、世界の原子力発電事業者が原子力発電の安全性、信頼性向上を目指し、互いに運転経験の情報交換等を行うことを目的として1989年に設立
3. 組織概要（2010年2月1日現在）
  - ・加盟：35カ国・地域
  - ・総裁：S.K.ジェン（インド原子力発電公社会長）
  - ・議長：ローレン・ストリッカー（EDF原子力担当上級顧問）

4. WANO 総会

WANO の健全な発展のため、各会員の経営層が2年に1度一堂に会し、WANO の活動方針及び原子力発電全般について幅広く協議・意見交換を実施

第1回(1991年) アトランタ	第2回(1993年) 東京	第3回(1995年) パリ
第4回(1997年) ブラハ	第5回(1999年) ビクトリア	第6回(2002年) ソウル
第7回(2003年) ベルリン	第8回(2005年) ブダペスト	第9回(2007年) シカゴ

## 世界原子力発電事業者協会(WANO)

WANOは原子力発電事業者単位で会員となる民間組織で、会員間で、情報を交換することと、コミュニケーション、比較、学び合いを奨励することにより原子力発電所の安全性と信頼性を最高レベルに高めることを目的としています。（1989年5月設立）

